

第8回デメンシアカンファレンス&第1回認知症チーム医療・ケアセミナーを開催

2015年11月20日

11月20日(火)に国立病院機構北陸病院、石川県立高松病院、金沢大学が担当する「第8回デメンシアカンファレンス&第1回認知症チーム医療・ケアセミナー」を開催しました。

今回のカンファレンスでは、看護師等のメディカルスタッフによる症例報告で進められました。最初に国立病院機構北陸病院から、『地域支援事業者との連携により自宅療養が継続できている幻覚、妄想のある認知症の症例』として、引き続き石川県立高松病院から、『入院前の迷惑行動から対応困難とされたレビー小体型認知症の1例—地域での支援体制を整えることの重要性—』として症例報告があり、それぞれ活発に質疑応答や意見交換がありました。

症例報告に続き、センター長の丸木雄一先生に『地域包括ケアシステムにおける認知症ケアネットワークの役割』と題してご講演いただきました。埼玉県で地域包括ケアシステムを構築された実績をお持ちの丸木先生から、認知症医療におけるチーム医療、地域支援の経験談や重要性についてお話しいただきました。

今回のカンファレンス&セミナーは、従来の医師だけではなく、メディカルスタッフからの目線で実施され、チーム医療、地域支援の重要性を再認識することになり、大変有意義なものとなりました。



国立病院機構北陸病院からの症例報告



石川県立高松病院からの症例報告



金沢大学会場からの質疑応答



金沢医科大学会場からの質疑応答



埼玉精神神経センター・さいたま市認知症疾患医療センター
センター長 丸木 雄一 先生



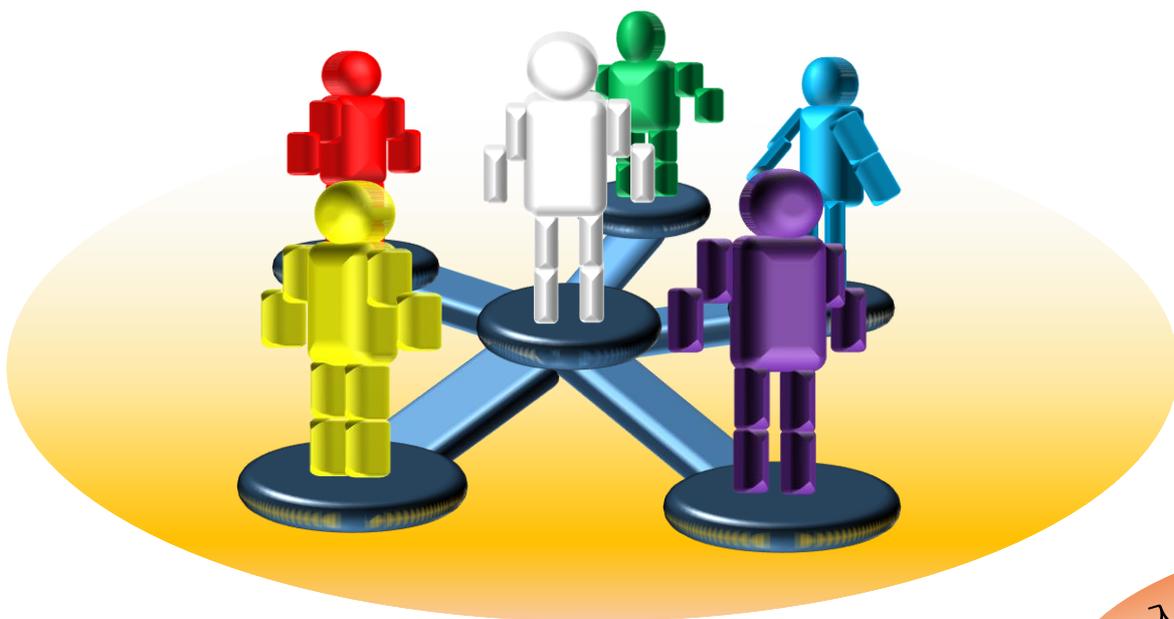
閉会挨拶 認プロ プロジェクトリーダー
山田 正仁 教授



文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

『第8回 デメンシアカンファレンス』& 『第1回 認知症チーム医療・ケアセミナー』

— 認知症医療における地域支援を中心としたケアについて —



入場無料
申込み不要

日 時：平成27年11月20日（金）17：30～

場 所：金沢大学医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室
(テレビ会議システムを利用し、他9施設で参加可能)

症例報告：石川県立高松病院

『入院前の迷惑行動から対応困難とされたレビー小体型認知症の1例

— 地域での支援体制を整えることの重要性 —

国立病院機構北陸病院

『地域支援事業者との連携により自宅療養が継続できている

幻覚、妄想のある認知症の症例』

講 演：丸木 雄一 先生

埼玉精神神経センター・さいたま市認知症疾患医療センター センター長

『演題 地域包括ケアシステムにおける認知症ケアネットワークの役割』

お問い合わせ 北陸認プロ運営事務局

〒920-8640 金沢市宝町13-1 TEL 076-265-2149 FAX 076-234-4208

E-mail ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp URL <http://ninpro.jp/>

『第8回デメンシアカンファレンス』

& 『第1回認知症チーム医療・ケアセミナー』

開催日時：平成27年11月20日（金）17：30～19：10（予定）

開催場所：各施設のテレビ会議システム設置室

金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室）
富山大学（附属病院2階カンファレンスルーム2）
福井大学（院生棟4階セミナー室）
金沢医科大学（基礎研究棟3階大学院セミナー室）
国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）
石川県立高松病院（医局会議室）
国立病院機構北陸病院（特殊診療棟2階小会議室）
谷野呉山病院（共通棟1階ミーティング室）
魚津緑ヶ丘病院（5階会議室）
福井県立すこやかシルバー病院（管理棟2階応接室）

I. 症例報告 17：30～18：20

①発信：国立病院機構北陸病院 17:30～17:50（発表15分、質疑応答5分）

『地域支援事業者との連携により自宅療養が継続できている幻覚、妄想のある認知症の症例』

②発信：石川県立高松病院 17:50～18:20（発表25分、質疑応答5分）

『入院前の迷惑行動から対応困難とされたレビー小体型認知症の1例—地域での支援体制を整えることの重要性—』

II. 講演（発信：金沢大学）18：20～19：10（講演40分、質疑応答10分）

演者：埼玉精神神経センター・さいたま市認知症疾患医療センター

センター長 丸木 雄一 先生

演題：『地域包括ケアシステムにおける認知症ケアネットワークの役割』